

2022年度 冬号 Start Line

図書部&進路指導部からの進路情報を発信します。冬号は、節目を迎え、新しい一歩を踏み出す時に読んでほしい本を特集しました。苦しい時や、心が辛くなった時に、心の支えになればと思いながら、本を選びました。

『カーテンコール!』 加納朋子 著 新潮社

3月末で閉校が決まった私立の女子大学。学園側の救済措置にもかかわらず、卒業できなかった学生たちがいました。外出、ネット、面会すべて禁止の寮生活をおくり、特別補講を受講さえすれば、卒業を認めるということになりました。彼女たちが、学校に登校できなかった理由は、摂食障害、睡眠障害など様々ですが、寮生活をする中で、自分にこれまで欠けていた何かを一人一人が見つけていきます。理事長の「優しさには人のためになる優しさと、人をダメにする優しさがあるというのを覚えておきなさい。」という言葉は、とても心に残りました。

『ある奴隷少女に起こった出来事』

ハリエット・アン ジェイコブズ 著 大和書房

19世紀アメリカで、ある黒人の奴隷少女が自らの尊厳をかけて、戦った実話です。「悲しみ」「絶望」「恐怖」日々苦難の連続の中で、決して諦めることなく、前を向いて生きてきた先にあった人生とは、...

最初は、物語だと思われていたのですが、126年後に実話とわかり、米国でベストセラーとなり、日本でも話題となった本です。アメリカの歴史を知るためには、とても良い本だと思います。

『ライオンのおやつ』

小川糸 著 ポプラ社

瀬戸内海の島にあるホスピスが舞台です。この病院には、毎週日曜日、入居者がもう一度食べたい思い出のおやつをリクエストできる「おやつの時間」があります。おやつを食べながら、おやつにまつわる思い出を語るという時間です。命の終わりを意識する時、人は何を考え、行動するのか?重いテーマの中に、温かさが感じられ、最後には涙が流れてしまいました。私が、最後に食べたいおやつは、母が面倒だと言いながら作ってくれたレモンパイです。



『手紙屋』 喜多川泰 著 Discover twenty one

「手紙屋」との10回の手紙のやり取りを通して、大きな企業に就職したいとか、給料のいい所で働きたいという、目先のことにとらわれるのではなく、「人生」「働く」ことの本当の意味を考え、自分が求めている事の本質を発見してゆくという本です。これから、みなさんが経験する就職活動は、本当に心が折れることばかりですが、そんな時にこの本がそばにあるといいなと思い、選びました。



『同志少女よ、敵を撃て』 逢坂冬馬 著 早川書房

ドイツとソ連が戦争していた時に実在したソ連の女性狙撃兵たちをモデルに書かれた小説です。日々、命を削りながら生きる苦しみと、過酷な状況の中で芽生える絆がとても丁寧に描かれています。戦争がいかに理不尽で、人々を狂気へと導いてゆくのが、ひしひしと伝わってくる作品です。戦争が終わった後、国には平和が訪れますが、戦場での経験は、少女たちの心を傷つけ、戦争前の何も知らなかった純粋な心には、到底もどけません。ノーベル文学賞作家スヴェトラナ・アレクシエーヴィチの『戦争は女の顔をしていない』も併せて読んでください。コミック判と小説、どちらもあります!



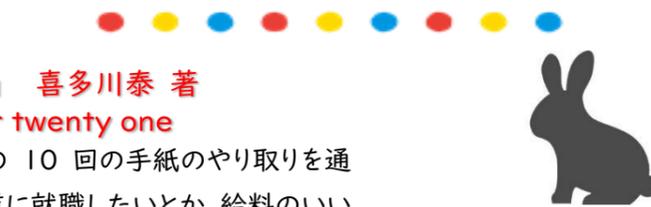
『さらさら流る』 柚木麻子 著 双葉社

ネット上に、自分の写真が勝手にあげられていた。それも目の前で消してもらったはずの写真が。信じていた人が裏切ったのか?世界中の人にさらされてしまったことへの恐怖や、自分の軽率さへの悔恨、人への不信感と闘いながら、一人の女性が立ち直ってゆく物語です。個人情報をもろの罪悪感もなしに載せてしまう、また載せられた情報を相手の気持ちを考えずにただ楽しむ。現代の情報社会に警笛を鳴らす作品だと思います。SNSを活発に利用している高校生のみなさんにぜひ読んでほしい作品です。



『たいせつなこと』 マーガレット・ワイズ・ブラウン 著 フレーベル館

1949年にアメリカで出版されて、世界中で読み継がれてきた名作です。「スプーンは、手でにぎれて、そのくぼみで色々なものをすくいとる。でも、スプーンにとって大切なのは、それを使うと上手に食べられるということ。」目の前にある身近にあるものと向き合い、私たちにとって何が大切かを優しい言葉で語りかけてくれます。「あなたは、あなた。あなたにとって、たいせつなのは……?」なんですか?考えてみませんか。



『医者よ、信念はいらぬ 命を救え!』 中村 哲 著 羊土社

中村さんは2019年12月4日、アフガニスタンで、凶弾に倒れました。医師としてたくさんの患者を治療し、大千ばつで苦しむ人々を救うため約1、600の井戸を掘りつけました。中村さんは常に現地の人たちの心に寄り添い、制約の中での最善を目指して活動してきました。この本は、2003年の講演会をまとめたもので、アフガニスタンの実情や中村さんのこれまでの取組みがわかりやすく書かれています。活字が苦手な人は、絵本もありますよ。

ここで紹介した本は、全て天高図書館にありますので、ぜひ図書館に来て、手に取ってみてください。みなさんの来館を、お待ちしております。(図書館)